

国際シンポジウム

「楽浪漆器」出土に学ぶ 〈アジア造形文化を繋ぐ思想〉の研究

日時 2009年11月22日(日)

9:30 - 17:00

場所 秋田公立美術工芸短期大学 大講義室

(秋田市新屋大川町12-3、Tel. 018-888-8100)



小場恒吉『楽浪時代 漆器模様図解』(2008年6月発行)より複写

楽浪漆器は、漢代の中国(前1~後3世紀)で製作された漆器です。しかし、朝鮮の楽浪郡遺跡から出土したため、「楽浪漆器」と呼ばれてきました。1909年に発掘が始まると、楽浪漆器はその精緻な技巧、靈妙な文様など、高度な造形力によって、近代の芸術と文化に衝撃を与えました。

日本にとって楽浪漆器は、日本漆工のルーツが朝鮮半島経由で二千年前の中国にまで遡る可能性を意味していました。韓国(朝鮮)にとってそれは、自国文化のルーツのひとつが中国文化であることを示していました。楽浪漆器は、いわば北東アジアにおける芸術や文化の源泉として、20世紀に「再発見」されたのです。

この発見のもつ意味を、今回の国際シンポジウムでは美術史および文化史の視点から解明します。とくに、古代における楽浪漆器の流通を根拠にして、1910~30年代の日本で言説化された〈アジア造形文化を繋ぐ思想〉と、それが近代の韓国(朝鮮)に与えた影響に焦点を当てます。

また、楽浪漆器の写真とその発掘に携わった小場恒吉の「楽浪漆器」模写などを並べる資料展示も併せて開催します。

プログラム

- ① 9:30-10:00 「開催趣旨 一関野貞・小場恒吉・六角紫水」
樋田 豊郎 秋田公立美術工芸短期大学学長
- ② 10:00-10:45 「古い楽浪漆器の新しい解釈」
呉 同 高麗大学考古美術系客座教授／ボストン美術館名誉学芸員
- ③ 10:45-11:15 「楽浪墳墓出土の漆器 一平壤貞柏里 13号墳出土品を中心として」
李 栄勲 国立慶州博物館館長
- ④ 11:15-11:45 「楽浪郡と東アジアの国際化」
早乙女 雅博 東京大学文学部准教授
- ⑤ 11:45-12:15 「日本の美術家が構想した東亜という理念」
樋田 豊郎 秋田公立美術工芸短期大学学長
(休 憩)
- ⑥ 13:15-13:45 「李王家美術館所蔵の近代日本美術における復古のイメージ」
宣 承慧 国立公州博物館学芸研究士
- ⑦ 13:45-14:15 「津田信夫の〈伝統〉への試み」
前川 公秀 佐倉市立美術館館長
- ⑧ 14:15-14:45 「植民地期における楽浪古墳発掘と小場恒吉」
鄭 仁盛 嶺南大学文化人類学部教授
- ⑨ 14:45-15:15 「小場恒吉の文様史学」
横溝 廣子 東京藝術大学大学美術館准教授
- ⑩ 15:30-17:00 「総合討論」
山田 敦雄 (司会) 目黒区美術館学芸員

韓国語と英語の通訳がつかます。

日時 2009年11月22日(日) 9:30-17:00 主催 秋田公立美術工芸短期大学、日本基層文化研究会
場所 秋田公立美術工芸短期大学 大講義室 後援 美術史学会、漆工史学会、フォーエバー現代美術館
概要 一般公開(入場無料) 定員180名(先着順) 助成 野村国際文化財団
お問い合わせ

秋田公立美術工芸短期大学(〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3)

樋田豊郎 fax. 018-888-8101 email. hida@amcac.ac.jp

京都国立近代美術館(〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町)

松原龍一 fax. 075-752-0509 email. ryu@ma9.momak.go.jp

東京藝術大学 大学美術館(〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8)

横溝廣子 fax. 050-5525-2532 email. hilo@am.geidai.ac.jp

関連企画

国際シンポジウム記念資料展示「楽浪漆器と小場恒吉」

日時 2009年11月22日(日)～12月6日(日) 9:00-16:30
場所 秋田公立美術工芸短期大学 市民ギャラリー(入場無料)